な葉柄のふくらみがない植物で九月頃、青紫色の美しい花を咲かせます。この植物は桜川の岸辺やハス田、休耕田などに見られますが霞ケ浦にはありません。なお、ホテイアオイは元来熱帯植物で、46年8月現在土浦では野生状態のものは全く見られませんが、私の記憶によると数年前、現在の市営駐車場がまだ川であったころ、川口付近に確かにあったようです。その時採取するか写真を撮っておくかして記録を残しておけばよかったと、今になって悔んでいる次第です。

夏になりますと、桜川、備前川、その他ほとんどいたる所の水面にぎっしり生い茂る、まるい葉の植物がありますが、これはトチカガミです。葉の裏側に小さな浮き袋のような部分があり、白い小さな目立たない花を咲かせます。汚水に強く、生育が極めて旺盛な植物であることから、今後下水などの処理に利用できるのではないかと考えられます。

オニバスは、桜川から霞ケ浦に出たあたりの所にはありますが十年ぐらい前にくらべると少なくなっているようです。普通のハスとちがって葉の表面

全体に多数のトゲがあるので、うっかり触わると痛い目にあいます。また葉が水面について浮んでおり、それより上にはほとんど伸びないことも普通のハスと違う点です。

金魚などの水槽によくキンギョモという水草を入れますが、この「キンギョモ」という名前は土地により、また人によって色々な異なった植物につけられているのではないかと思われます。土浦市内の金魚屋で普通売っているキンギョモは、ここにあげてあるキンギョモ（ホザキノフサモ）ではなくてハゴロモモ（別名フサジュンサイ）のようです。この植物は桜川から霞ケ浦にかけて比較的多く見られ、神林や沖宿の方にもあります。きれいな緑色をしているので水槽に入れるのに適していますが水の汚濁には弱いようです。観賞魚の水槽に入れる水草としてこのほかにオオカナダモ（カナダモともいう）があります。この植物は、その名前のとおり原産地が北アメリカで、低水温に強く、水の汚濁にもかなり強い種類です。土浦付近には見られませんが、霞ケ浦全体として